SEIBU·PIANO TIMES 2001

西部ピアノ通信 8

がんばってます!! 徒歩編

♫ 車で移動はスイスイらくちん、重い道具も車が運ぶよ
だけど徒歩部隊は、デカイ荷物もってテクテクと、自分で自分を運ぶのよ♪

● ありがとう!

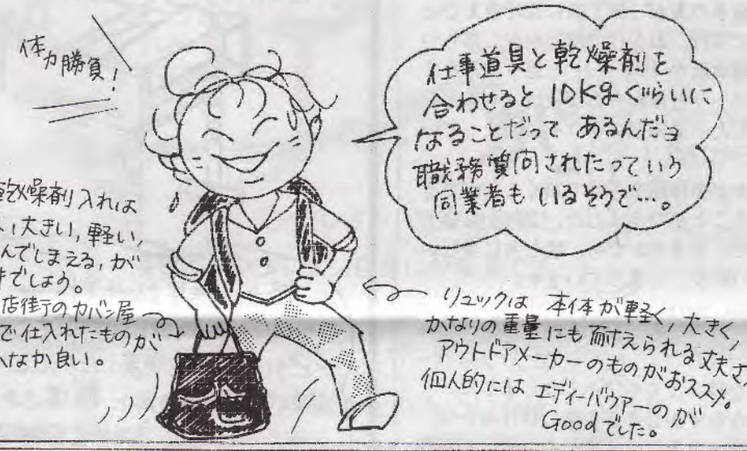
●車でお伺いできない担当者を、お車にて駅までご送迎下さるお客様、本当に、本当にありがとうございます。

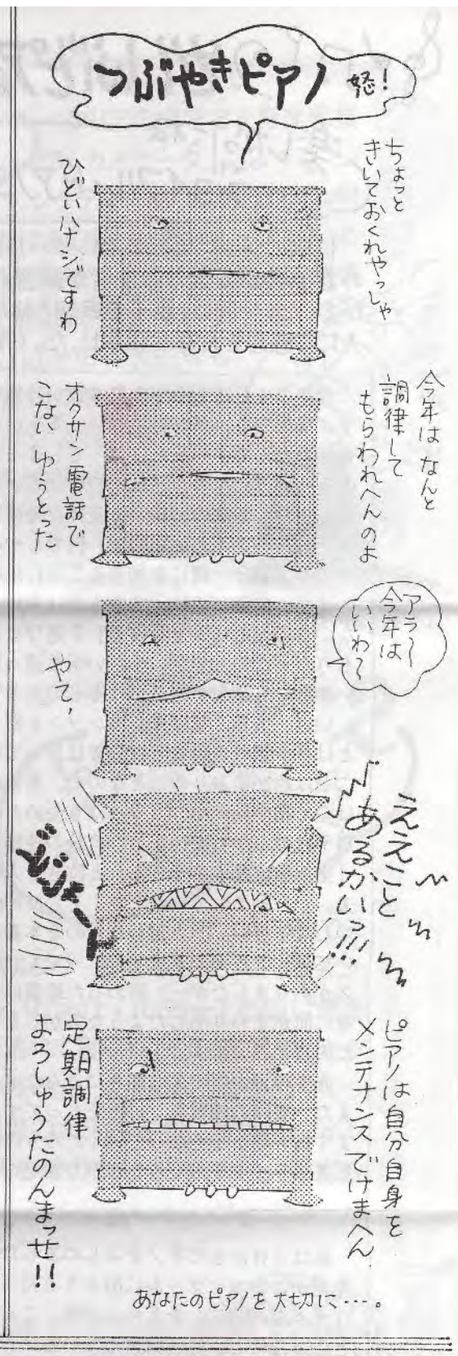
●なにぶん、道具の多い私達、うっかり忘れた道具などをわざわざ、送って下さったり、ご連絡下さったり、心から感謝しております。

●昼食抜きで到着したところ「あなた、おひるまだでしょう?」と用意して下さり、「夕食のおかずの足しにしてね」とひじきの煮付けを持たせて下さった奥様。
あの時は、この仕事をしてて本当に良かったと思いました。

● 家出娘

●電車でまわっているKさんはリュックサックに仕事道具、手提げ袋に沢山の乾燥剤…という調律師というイメージからは、かけ離れたいでたちである。
見知らぬおじサマに「おマエさん、どこから来たんや?!」と家出人扱いされてしまったそうですよ…。

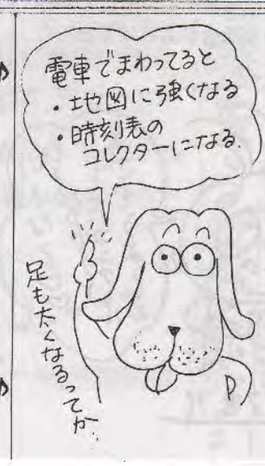




♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

発行人:(有)西部ピアノ
本社工房・大阪市大正区鶴町3-18-30
TEL06-6554-7201
東京工房・東京都墨田区立川4丁目14-11
TEL03-5638-5660
名古屋工房・徳島工房・福岡工房 他
0120 FreeDial (0120)752-777

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪



編集後記

車でお伺いすると、体力的にはかなり負担が少ないし、あちこち行けるし、早くまわれるし!!と、良い点はたくさんあります。ただ、電車でまわると(確かに色々と大変なんだけれど)ランチの安くておいしい店にめぐりあったり、移動中に休息が得られたり勉強できたり、何よりお客様との会話が増えるのは楽しみなことです。仕事だけで終わるのではなく人と人との関わりを大切にしていきたいと考えているこの頃です。

♪ ぜいぶピアノNOW ♪

楽しかったね ジョイフル・ピアノコンクール!!

恒例のジョイフルピアノコンクールが今年も6月9日に開催され多数の参加者が多数の参加者が練習の成果を熱演、さかんな拍手を浴びました。今回は、親子で参加された伊勢村美里様、美幸様のお二人にご感想をお寄せ頂きました。(指導、丹佳代先生)

今年の4月から小学5年の娘が丹佳代先生にピアノをみてもらっています。最初のレッスン日につい、先生に「私も最近、ピアノを久し振りに弾き始めたんですー」と、言ってしまったことが今回のコンクールへの参加のきっかけになろうとはその時は思いもしませんでした。

先生から参加のお誘いを受けた時はだいぶん迷ったのですが元々調子のりでおっちょこちょいの上、何でもやろうと好奇心で一杯おばさんの私ですので、娘と一緒に参加することに決めました。

まず、曲選びでは、できるだけスローテンポで音符のあまり密集していないもの…と「シャレード」を選びました。自分では、かなり練習したつもりだったのですが、小さい頃と違って、なかなか暗譜ができません。幸い本番でも譜面を見て弾けるとのことで、気が楽になりました。

いざ、当日、私は今シャンソンを習っていることもあり、舞台に立つことは多少慣れていると自分では思っていたのですが、ピアノを人前で弾くことは約20年ぶりのことなので、異常に緊張してしまい、本番前の試弾では全く指が動かず、「やっぱりやめといたらよかったのに…。いい年して調子にのるからや…」と、自分の性格を恨みました。休憩の時に、先生に「全然指が動きませーん」と泣きを入れたら「練習通りに弾けば大丈夫。」と励ましていただき、そして司会者の方が「弾く前に深呼吸をひとつして下さい。」と言われたのを本番で実行。おかげで何とか少し落ちついて弾くことができました。(でも、何ケ所か「あーっ」と思うようなミスがありましたが…)終わった瞬間はフーッと体から力が抜け、やっと全身に血がまわり出したような気がしました。よほどコチコチに固まっていたのだと思います。

先生のおかげで久し振りにこんなドキドキ体験をさせて頂くことができまた、普段の練習も、目標をもってすることができました。これからますます指も動かなくなっていくだろうけど、ささやかでも、娘と共に楽しいピアノライフをおくることができたらいいな、と思っています。

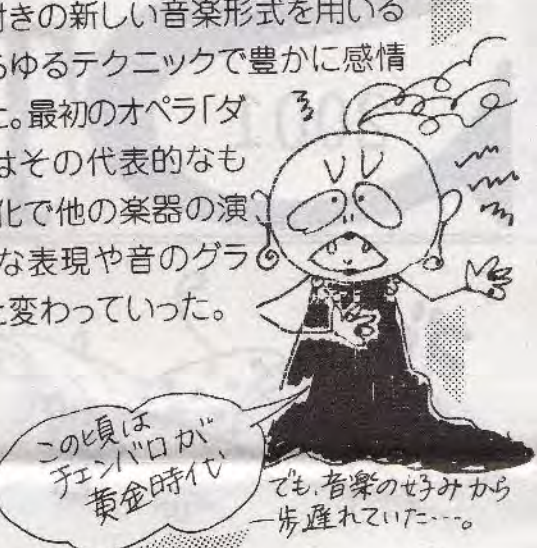
♪ ♫ ♩ ♪ ♫

私は4月からピアノをはじめました。
先生がこのコンクールに出ようと言った時、とてもびっくりしました。「大きな古時計」をえらんだ時、こんなむずかしそうな曲、ひけるかな、と思ったけど、毎日練習しているととても上手になりました。そして本番では一度もまちがえずにひけました。またこういう機会があれば参加したいです。

これからも どうぞ素敵なピアノライフを!!

1 16世紀末 新たな音楽形式〝レシタティーボ(歌唱法)〟の創造

イタリアの文学者と音楽家集団「カメラータ」によって“レシタティーボ”が創られた。和音の伴奏付きの新しい音楽形式を用いることによって声楽にもあらゆるテクニックで豊かに感情表現がなされるようになった。最初のオペラ「ダフネ」「ユーリディース」はその代表的なものである。発声技術の変化で他の楽器の演奏法も、よりダイナミックな表現や音のグラデーションを出す方向へと変わっていった。



2 1697年 スーパーダルシマー〝パンタレオン〟が発明される!!(フランス)

バイオリニストで天才的ダルシマー奏者であったパンタレオン・ヘーベンストライト(1669〜1750)は借金取りから逃れて雲隠れ。その間コツコツとダルシマーを改良した。そして従来のダルシマーの4倍の大きさ、左右に響板有、ワイヤーを備え巻線のガット弦を使用し、弦総数185、クロマック音階を持つ、といったスーパー楽器を作り出したのである。

パンタレオンに今は魂をうばわれた…「が」

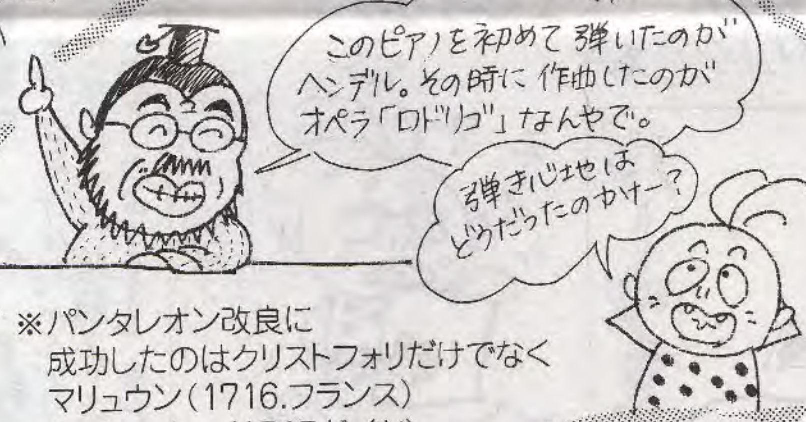
“パンタレオン”の演奏は難しすぎてパンタレオン自身しか演奏できなかったのであった。2本のマレット(ばち)を駆使し、またダンパーがないため手や袖で弦の振動を止める、という技は発明者である彼以外にはできなかったのだ。だがこの素晴しい音色や響きを持つ楽器を鍵盤楽器として指であやつることはできないのか?と、大勢の技術者たちが改良に取り組み始めるのである。

そして……

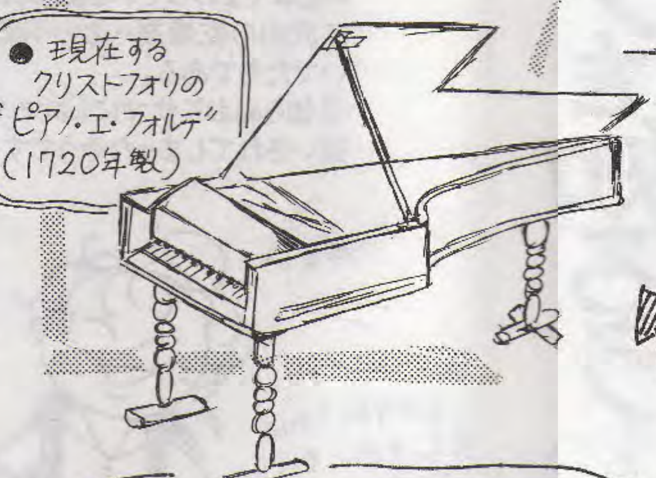
3へ

3 1709年 クリストフォリ 初のピアノを作る!(ついに!!)

バルトロメオ・ディ・フランセスコ・クリストフォリ(1655〜1731)
彼はコジモ三世の息子であるフェルディナンド王子のお抱えの楽器製作者だった。王子が熱心な楽器愛好者だったため、仕事場を与えられ、チェンバロ改良に専念させられるなど好待遇であった。王子に報いようとパンタレオン改良に取り組んだ結果、ついに「ピアノの元祖」が誕生したのである。
クリストフォリはこの“元祖”に「クラビチェンバロ・コル・ピアノエ・フォルテ」と名付けた。「ピアノもフォルテも弾ける大型チェンバロ」という意味である。この長ったらしいネーミングもどんどん略されて、今の「ピアノ」という短い名称になったという。まだこの頃のピアノはチェンバロにハンマーアクション(打弦機構)をつけただけで、楽器としては完全なものではなかった。



※パンタレオン改良に成功したのはクリストフォリだけでなく
マリュウン(1716.フランス)
シュレーター(1717.ドイツ)
が存在する。



努力の結果誕生したせっかくのピアノも長い間表舞台には出てこんかった。
どういうふうに演奏したらええんか、性能も扱い方もわからんと敬遠されたそうや…。
ピアノのために初めて作曲されたのは、なんとクリストフォリが亡くなってから。
ロドビコ・ギュスティーニ=ディ・ピストアという作曲家が12曲のソナタを書いておる。